

令和8年度 中学校・小学校・幼稚園・こども園 研究主題＆研究仮説等

	学 校 名	研 究 主 題	研 究 仮 説	教科等
1	中主 中学校	「生徒の『生きる力』を育む国語力を伸ばす授業づくり」(2年次) ～授業UDとUDLの視点によるアプローチを通して～	各教科の授業において国語力を伸ばす工夫に重点を置いた授業実践に取り組むことで、生徒が考え、感じ、想像し、表出する力を伸ばし、各教科の学習や学校生活に抱える困難を乗り越えることができるだろう。	全教科
2	野洲 中学校	自他を尊重し、自律と共生する力を育む学校(づくり)	生徒指導の実践上の視点を意識した授業づくりや取組を進めることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、生徒が主体となる授業や行事を展開することができるだろう。	数学科 社会科
3	野洲北 中学校	学校教育における「ユニバーサルデザイン・スタンダード」の作成 ～生徒も教員も楽しく「わかる」「できる」授業をめざして～	特別な支援が必要な生徒を含めて、通常学級におけるすべての生徒が楽しく学び合い『わかる・できる・探究する』ことを目指す「授業のユニバーサルデザイン」の整備を図ることが、生徒の学力向上につながると考える。本校独自のスタンダードを策定することによって、全校体制の整備を図りたい。	全教科
4	中主 小学校	「体育の楽しさを感じながら、自ら学び続ける子どもの育成」 学び合いとふりかえりを通して、運動のよさや楽しさを実感する授業づくり	児童が体育の学習において楽しさや達成感を感じながら、主体的に学び続けるには、技能の習得だけでなく、学びの過程を大切にした授業づくりが重要である。そこで、学び合いの場面を意図的に設定し、児童同士が互いの動きや工夫を伝え合うことで、多様な気づきや考えに触れ、自分の学びを深めることができると考える。さらに、毎時間のふり返しを通して、自分の成長や課題、友だちとの関わりを言語化することで、学習への見通しや意欲が高まり、次の学びへとつながっていくと考える。これらを継続的に行うことで、児童は運動のよさや楽しさを実感しながら、自ら課題を見つけ、解決しようとする態度を身につけ、主体的に学び続ける姿が育成されるであろう。	体育科
5	篠原 小学校	「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の創造 ～振り返り活動を習慣化し、次時の見通しをもつことで 自ら学ぶ意欲をもって学習する篠っ子の育成～	算数科において、振り返り活動を習慣化し、次時の学習への見通しをもたせることで、学ぶ意欲をもって「主体的・対話的で深い学び」を実現し、児童が学ぶ実感を得ることができるだろう。	算数科
6	祇王 小学校	ふれる・ひらめく・ふくらませる ～もっとやってみたい・おもしろいという思いを引き出す授業づくり～	「造形遊び」において、素材に浸り造形的な活動が思いつきやすい環境設定や教師の共感的な声かけ(肯定的な関わり)、子どもたちが自然に発想を交流することができる場を意識することで、つくる楽しさ(おもしろそう)や生み出す楽しさ(やってみたい)の思いが生まれて、活動に主体的に取り組むことができるだろう。	図画工作 科
7	三上 小学校	仲間とともに深く考える子どもの育成 ～どの子にも力のつく言語活動を位置付けた授業づくり～	すべての子どもが自分の考えを表出し、対話に加わることができる言語活動を位置付けた授業を構成すれば、子どもは仲間との対話を通して深く考え、話し合う力および各教科の資質・能力が育成されるだろう。	全教科
8	野洲 小学校	課題解決に向けて 仲間と豊かに関わり 自ら学びを調整する やすっこの育成	課題のもたせ方や体育科における見方・考え方を働かせて課題解決ができるような単元構成を工夫するとともに、児童の目線に立った授業改善を行うことで、課題解決に向けて仲間と豊かに関わり、自ら学びを調整する力を育成できるだろう。	体育科
9	北野 小学校	「子どもの主体性を高める授業展開の工夫」 ～子どもの“話してみたい”を育む授業を目指して～	算数科の学習の中で、つけたい力に迫る交流や教師の発問の工夫を行うことで、問題や自分、友だちの考え方を比べながら、学びをより深めようとする子どもの姿を育てることができるだろう。	算数科
10	中主 幼稚園	人やもの、ことと豊かにつながる子どもを育てるために ～子どもが主体的に関わる中で「かんがえる・やさしい・げんき」な姿が 響き合う保育を目指して～	子ども一人ひとりの興味や関心に基づき、人・もの・ことと主体的に関われる環境を整え、保育者がその試行錯誤や心の揺れに寄り添い共感していくことで、子どもが自ら課題を見つけ解決しようとする『かんがえる子』、自分や他者の存在を大切にする『やさしい子』、そして充実感を持って意欲的に活動する『げんきな子』としての姿が、豊かに紡ぎ出されていくであろう。	全保育
11	野洲 幼稚園	「一人ひとりが遊び込める保育環境の充実」 ～個に応じた環境や支援のあり方とは～	・個々の子どもの興味や発達に即した保育環境を充実させ、適切な援助を行うことで、心が動かされ、やってみようとする意欲や遊びこむ姿、豊かな自己表現につながるであろう。 ・保育者の具体的で丁寧な認めにより個が充実することで、「友だちに伝えたい」、「一緒にやりたい」という姿につながり友だちの思いを伝え合い、認め合えるかかわりが生まれるであろう。	全保育
12	祇王 幼稚園	「やってみたい」「たのしい」があふれる保育を目指して ～触れて、感じて、思いをつなぐ 保育内容を学ぶ～	子どもが「やってみたいけど・・・」「どんなふうにしたらいいのかな」と感じた時に、子ども自身が実際に「触れる」「見る」「感じる」ことができる実体験が子どもの育ちの過程で必要である。体験したからこそ、「こんなことをやってみよう」と次の遊びへの意欲や関心につながり、主体的に遊びに関わろうとする。またその実体験は、肩を寄せ合うすぐ隣にいる仲間と感じ合う(緊張感や感動、驚きなど)共有体験となり、遊びへの思いやつながり、人への関わりのきっかけとなり、広がり深まっていくだろう。	全保育
13	北野 幼稚園	「主体的・対話的で深い学びを求めて」 ～遊びがつながり連続するために必要な環境構成や保育者の援助とは～	・子どもたちが「やってみたいな」「おもしろそうだな」と興味関心をもって遊べるように発達段階に応じた環境を用意したり、保育者が意図的な言葉かけや働きかけをすることによって、遊びがつながり連続性がうまれ、自ら環境にかかわり、考えたり、試したり、工夫したりして意欲的に遊ぶ姿につながるであろう。 ・主体的・意欲的に遊び、自己充実することで、遊びの中での気付きや学びを、友だちや保育者に伝えたいという思いが湧いてきて、自分の思いを表出したり、伝え合ったり、協力し合ったりして自らの考えを広げ深める、対話的な学びにつながるであろう。	全保育
14	ゆきはた こども園	「わたしてってええやん!友だちってええやん!わたしらってええやん!」 ～一人ひとりの子どもが自ら選び夢中になって遊ぶための環境構成とは～	一人ひとりの子どもが、自分の興味を持った素材や環境を自ら選び、試行錯誤できたりイメージを共有できたりする環境を構成・再構成することで、満足感・達成感を味わい、また子ども同士の対話が生まれ、自分のことを肯定したり仲間と遊ぶおもしろさを味わうことができるだろう。	全保育
15	さくらばさま こども園	「やってみよう」「もっとしよう」が広がりつながる園庭の遊び ～繰り返し遊びこみ、友だちとつながり合うための環境構成や保育者の援助を探る～	子どもが「やってみよう」と興味をもち、「もっとしよう」と夢中になって繰り返し遊べる園庭環境や保育者の援助を工夫し続けることで、次の遊びへの意欲や明日への期待が高まるだろう。その一人ひとりの遊びが周りへと広がり、友だちの思いを出し合い考え合って遊びを展開させる姿や、年齢を超えてつながり合う姿になるだろう。	園庭での 遊び
16	篠原 こども園	『子どもの姿から学ぶ』 ～主体性を育む環境構成と保育者の援助を探るⅡ～	発達段階に応じた『選択肢のある環境』と、『見守り・支える援助』が相互に作用することで、子どもは自ら試行錯誤を繰り返し、学びに向かう力の基礎となる「主体性」が育まれることにつながるだろう。	全保育
17	三上 こども園	保育者とともに考える中で広がる子どもの気づきと試行錯誤 ～共主体的な関わりが育む主体的な学び～	保育者が「教える人」から「一緒に考える人」へ関わり方を変えると、子どもは指示待ちにならず、試行錯誤を楽しめるようになるだろう。	全保育